



・・・今日も快晴!・・・
トラックドライバー 日誌

第35話 「ながら運転」は 「居眠り運転」と 同じ危険な行為



「ながら運転」は「居眠り運転」と同じ危険な行為

スマホを「折り返し発信専用」に

仕事には必要なスマホ。例えば、今や見掛けることが少なくなった公衆電話の代わりとして考え、安全な場所へ停車後にスマホで折り返しするのが良いでしょう。



事故がいやなら車を停めてから通話を！

マンガ制作: ad-manga.com

スマホを使用するシーンとして、業務上では初めての道で不安から「ナビ操作」が多く、慣れた道では過信から「私用でスマホを操作」することが多いようです。車内で笑いながら運転している人の多くは、おそらく私用の話で夢中になっているのでしょう。

運転を職業とする身にとって日頃からスマホ依存度の高い人は、飲酒依存度の次に危険です。そうは言ってもスマホは今や仕事に欠かせないツール。だからこそ、行き先を出発前に確認し出発後の発信回数を少なくしたり、ハンズフリーでの着信は「通話しながら運転」になるので、安全な場所に停車してから利用しましょう。

お勧めのスマホ活用方法

居眠り運転と同様の危険な状態で、次第に速度が定しくなくなり、ハンドルの固定や調整ができず蛇行運転を繰り返すなど…。「ながら運転」も「居眠り運転」も対策は同じで、車を停めることです。

似ている「ながら運転」と「居眠り運転」

ハンズフリー機能を使って通話しながら運転をすることも、「ながら運転」に含まれると考えるべきです。運転中は、頭・目・手・足を同時に動かしながら認知・判断・操作を行う、まさに「ながら行動」を繰り返す時間です。ハンズフリーとは読んで字のごとく手を空けることはできませんが、通話の内容により集中力が低下します。集中力が低下すれば予測が行えず、予測をしなければ目は開いていても「目を動かして見る」確認には至りません。

違反行為の慣れは事故への入り口

違反行為の繰り返しは、次第に怖さや後ろめたさが少なくなり、だんだんと「手口（方法）」が大胆になるもの。自ら事故に近づいているようなものです。

NG!

スマホから、サイズが大きく操作しやすく見やすいタブレットに変更



NG!

信号待ちでのスマホ操作から、発信後も操作を継続

「ながら運転」はなぜ駄目なのでしょう。「交通違反になるから」と考える人は、周りに警察官がいないから違反にならないと思い、運転をしながらスマホに手を伸ばそうとするかもしれません。一方「交通事故になるから」と考える人は、もし人目につきにくい場所で単独事故を起こせば発見が遅れ、「助かる命も助からない」と思い、両手で慎重にハンドルを操作するでしょう。

また「ながら運転」は、良くない方向で進化しているようです。運転中にスマホを手にとって通話や操作をする人はかなり減少していますが、巧妙に「かかれながらスマホ」を続けている人も。さらに直線が続く高速道路を運転中は「ながらスマホし放題」だと、危険な勘違いをしている人や、低速・等速運転と「デジタル」で評価されている人が、実は「ながら運転」をするためにゆとり走り走っていることもあるようです。追突事故発生時のドラレコ映像を検証してみると、前を見ていたら防げたと思われる事故の状況では高い確率で通話中であり、その証拠に車内カメラの映像内からは運転者の話し声が多く聞こえてきます。

違反と事故ではどちらがイヤ？

運転中のスマホでの通話や操作といった「ながら運転」は、考える力を低下させます。これは「居眠り運転」と同じく高い危険性が高い行為と考えましょう。

「ながら運転」は考える機能を低下させ予測を困難に

高柳 勝二（たかやなぎ かつじ）

株式会社 プロデューズ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデューズ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。

